

平成31年1月29日

横手市議会議長 齋藤 光司 様

広報広聴委員会広聴分科会
分科会長 佐々木 喜一

『市民と議会の懇談会』 報告書

「市民と議会の懇談会」の実施状況を下記のとおり報告いたします。

1. 開催日時	平成30年12月25日（火）
2. 開催場所	館合地区交流センター
3. 出席議員	佐々木喜一、立身万千子、青山豊、佐藤清春、 佐藤忠久、本間利博、大日向香輝
4. 申請団体	つきの木会女性部（館合地区女性団体）
5. 参加人数	23人
6. テーマ	「公共交通」「高齢者の雪対策」ほか
7. 懇談会の 内容	司会：広報広聴委員会広聴分科会 佐藤清春 ①議会側の参加者の紹介 ②出席者からの自己紹介（簡単に名前程度） ③意見交換（テーマに限らない内容も発言可とした）

8. 意見交換の主な内容

■経過説明

- ・10月に館合地区でも議会報告会を実施したが、夜の開催は女性の参加は難しいとのことから、市民と議会の懇談会という形で、館合地区交流センターを拠点に活動している女性団体と意見交換を実施した。
- ・今回の会は、頂いた意見を政策提案につなげるための意見交換の場である事、承った案件は議会全体で情報共有するが、個別案件に議会が回答をする会ではないことを説明し、

意見交換を行った。

■主な意見

【公共交通について】

- ・今日も病院に行ってきたが、私は病院に送迎してくれる人がいるが、デマンドで大森病院まで行けば片道1,300円かかる。病院だけでなく、買い物のバスなどをただとは言わないので、用立ててもらえないか。
- ・デマンド交通も2人乗ればいいのだろうが、なかなか2人集まるのも大変だ、また、計算の方法もよくわからない。デマンドに乗ってよかったなと思うこともあれば、こんなに取りられるのかと思うこともある。その辺の途中乗車ではこのくらい、とかいうものも分かるようにしてほしい。車を運転できないのは本当に不便だ。
- ・路線バスを含めた公共交通がないのは雄物川では館合地区だけだ。そこをもう少し考えてもらいたいと思っている。
- ・タクシーならデマンドでもなんでも走ればお金になるだろうが、そこでも（バス運行）は反対するだろう。
- ・バス事業者も商売だ。儲からないことはしないだろう。市ではデマンドにも予算がかかっているのだろう。その部分の一部でもこちら方面に小型バスを回してもらえないか。市や雄物川町で。
- ・雄物川町として小さなバスをデマンドに代わって運行してもらえないか。
- ・病院が大森、スーパーは沼館、その間に館合がある。そういうふうにして運行してもらえればできるのではないか。

【雪対策について】

- ・雪下ろしもやっぱり頼まなければならない。ここにはそういう団体も無い。
- ・今年は割と雪が少なくて良いが。西部地区は除雪が丁寧だと思う。この地域は消雪パイプがあって、雪が融けることは非常にありがたい。横手地域の人たちは雪寄せにトラックを使わなければならないなど非常に苦労している。今予算も減らされている中だと思うが、この除雪に関する部分の予算は減らしてほしくない。間口の除雪も若い人がいないと大変困難だ。排雪のための水路整備や道路の吹き溜まりの対策をお願いしたい。
- ・私のうちは近所の人が、私が寝ているうちに除雪をしてくれており、大変助かっている。雪下ろしの賃金だが、どのくらいに決まっているのか。
- ・私は雪下ろしは建設会社をお願いしている。

【その他】

- ・国の政策としていろいろ民生委員が不足している。私も民生委員をやっていた経験からだが、この薄井部落だけで男性が7人、女性が11人が一人暮らしになっている。それに対

して民生委員が少なくなっていて、薄井部落の一部が船沼の担当だったり、薄井担当の人が学校のほうの担当になったりして、民生委員が不足している。それは私が辞めたころから不足していた。それに対して高齢者が増えて来たし、一人暮らしが多くなってきたので民生委員の仕事も大変だろうし、ちょっと一人暮らしの人がお願いしても、それに対応してくれる人が少ない。国の政策だから何ともならないことかもしれないがそれが一つ。もう一つが、警察、もとはここ（館合）にも警察があったが、今は雄物川全体で警察が2人しかいないという話だ。このことで防犯のほうでも随分悩みがある感じがするので、そういうことについて国の政策なのでどうしようもないだろうけれども、一応そういう考えがあるということをお伝えしておく。

- ・民生委員の負担は大変。
- ・以前は良く訪問してくれたが、今はあまり来てくれない。
- ・十数年前から比べれば、全体的に高齢者の数が増えてしまったこともあるだろう。
- ・隣の家も死んでしまって、家の境界がはっきりしないままになっている。そこに相談するべきか。
- ・合併前の雄物川では、地区の情報交換をする場があったが合併してから何もなくなってしまった。今思えばあれは大変良かった。隣近所も緊密だった。
- ・今はいきいきサロンなどもあるので、それなりに一人暮らしでも元気に参加できる。
- ・でも個人的困りごとを相談するところではない。
- ・市職員のあり方。8時から5時までの勤務ということだと思うが、公務員への信頼ということはあると思う。民生委員、福祉協力員がやればよいということではなく、もっと生活に密着して、地域の困りごとには対応してもらいたい。頼られる職員になってもらいたい。
- ・防災無線が鳴らなくなってしまった。逆に他町村のものが聞こえてくる。
- ・地域で補助金を受けようとする報告があまりに難儀だ。6,000円くらいもらうために2晩も3晩も考えないといけないような状況だ。
- ・市への申請事務が難儀でそれで老人クラブを脱退したところもあるそうだ。我々は事務局が一生懸命やってくれるので辛うじて活動出来ている。
- ・いきいきサロンなどで講師を呼ぼうにも謝礼の予算がない。自分たちで出せばよいという話かもしれないが、以前は様々あった。今はできるだけお金のかからない人を探して連れてきている。
- ・いきいきサロンはだんだん男性の方が減ってきている。今年は特にはつらつ教室と日程が被って貴重な男性会員が少なかった。
- ・はつらつ教室は3月いっぱいまでやめることになるそうだ。ますます行くところがなくなる。







